

社員紹介コーナー

高尾が(株)永田会計初の定年となりました。

昭和62年の入社以来勤続27年、勉強熱心で税法に非常に詳しく、
会社の生き字引的な存在として大きく貢献してこられました。



昭和62年9月に入社して27年となりました。入社当初はコンピュータの活用が少なく時間に追われる毎日でした。

コンピュータシステムを活用することで毎月の会計業務や申告業務、事業計画・相続対策等多くのサービス提供ができるようになりました。

現在、継続雇用制度を利用して働いていますが、まだまだ質の高いサービスができるように知識も技能も磨いていくつもりです。今後ともよろしく願いいたします。

社員からのコメント

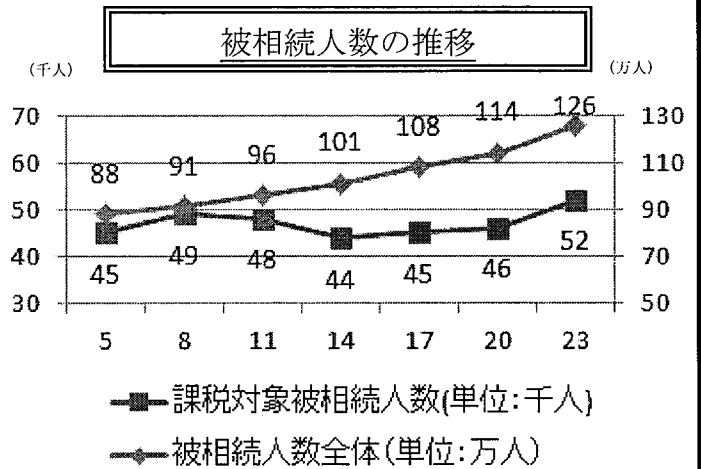
尾下：私が入社して一番初めに同行させてもらったのが高尾さんです。それからいろいろ教えてもらいました。お互い歳を取りましたが、経営のご相談に応えることができるように頑張っていきましょう！！

池松：豊富な経験と広くて深い専門知識を生かして、非常に頼れる相談相手になっています。普段は、とても温厚で、会社にいらっしやるだけで癒されるのは、きっと私だけではないはずです。まだまだ高尾さんの力が必要ですので、1日でも長く永田会計で頑張ってください。

■ 100人中4人で相続税が発生

高齢化が進む中、亡くなる方の人数も増加の一途です。2012年の死亡者126万人のうち、相続税の申告をして納税負担が出たのは5万2千人で、いわゆる課税割合は4.2%でした。

今年からの増税はこの課税割合をあげ税収を増やすため、政府見込みでは課税割合は1.5倍の6%台となるとされています。



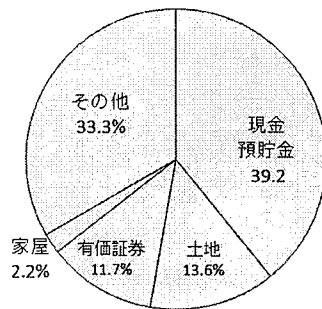
■ 申告もれが最も多い“預貯金”

申告もれの指摘が最も多いのは、現金預貯金

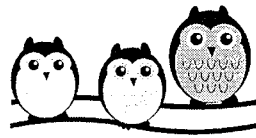
(1,189億円)で、全体の4割を占めます。これに土地(412億円)、有価証券(355億円)が続きます。

“現預金”については調査で必ず次の点がチェックされます。

申告もれ相続財産の構成



○名義預金



家族名義でも、印鑑や入出金が被相続人の管理下であれば、実質被相続人の財産として相続財産に含める必要があります。本人が生前贈与したつもりでもやり方に問題があり、相続税の対象になることも。

○相続前の預金引き出し

生前の預金の動きは、通常百万円単位での出し入れがあれば生前贈与の有無も含めて使い道が確認されます。実際の調査では隠していた金の延べ棒や、段ボール箱や畳の下の札束が発見される例も！

■ 海外関係の調査は増加傾向！

海外資産の調査は、相続税に限らず所得税、法人税でも重点項目で調査の目も厳しくなっています。

相続税では①相続財産に海外資産がある、②相続人や被相続人が海外に住んでいる、③海外資産に関する資料情報があるもの、④外資系金融機関との取引のあるものなどを“海外資産関連事案”と呼び、その調査件数は年々増加傾向にあります。

2013年度は、調査した753件中124件で海外資産の申告もれが見つかりました。大型案件があったためか、1件当たりの申告もれはなんと1億3,146万円にも上っています。(前年は2327万円)

海外資産関連事業案の調査推移

